第1会場　アクリエひめじ　2F　大ホール

8:30〜10:00　パネルディスカッション 17

座長：井上 稚枝子（倉敷成人病センター 医療安全管理室／周術期の安全な薬剤管理を考える会（倉敷））
梅村 朋（名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部）

患者教育を基盤とした周術期医療の質安全向上― 多職種連携と入退院支援の実践 ―

1　患者とともにつくる周術期医療安全

○鈴木 純
愛媛大学医学部附属病院 医療安全管理部

2　術前外来における多職種協働

○植田 優子、出口 サチ子、佐野 早苗、有澤 礼子
公益財団法人 大原記念倉敷中央病院機構 倉敷中央病院

3　薬剤師が繋ぐ周術期薬学管理

○柴田 ゆうか
日本大学薬学部薬剤師教育センター

4　地域連携を契機とした周術期における質安全の推進

○井上 稚枝子[1,2]、有澤 礼子[2,3]、出石 英治[2,4]、市川 大介[2,5]、小川 大介[2,6]、崎代 英樹[2,7]、竹増 真也[2,3]、二宮 洋子[2,8]、平松 洋子[2,9]
[1]倉敷成人病センター、[2]周術期の安全な薬剤管理を考える会(倉敷)、[3]倉敷中央病院、[4]水島中央病院、[5]倉敷平成病院、[6]医療法人天和会 松田病院、[7]児島中央病院、[8]川崎医科大学附属病院、[9]玉島中央病院

5　お薬手帳を起点とした患者主体の周術期情報連携

○岡野 泰子[1,2]、安倉 央[2,3]、近藤 真志[2,4]、安田 大佑[2,5]、安本 和善[2,6]、赤木 晋介[2,7]
[1]総合メディカル(株) そうごう薬局新倉敷店、[2]周術期の安全な薬剤管理を考える会(倉敷)、[3]マスカット薬局 倉敷店、[4]株式会社エスマイル ウイズ薬局児島店、[5]あいの倉薬局、[6]ドレミ薬局 倉敷下庄店、[7]就実大学薬学部 臨床薬学研究室

10:10〜11:40　海外招請セッション 4　座長：後 信（九州大学病院 医療安全管理部）
滝沢 牧子（千葉大学医学部附属病院／千葉大学大学院医学研究院）

医療による害を真の学習につなげるために必要な制度と運用
"From Harm to Learning: The Systems and Practices Needed to Turn Adverse Events into Genuine Improvement"

Keynote　Twenty years of innovation in Patient Safety: rethinking incident analysis for system improvement

○Tommaso Bellandi
North West Trust, Regional Healthcare Service of the Tuscany Region, Italy

1　医療による害を真の学習につなげるために必要な制度と運用

○伴 圭吾
厚生労働省 医政局 医療経営改革課 医療安全・医務指導室

2　大学病院における医療事故調査の実態アンケート調査
―AJMC患者安全推進委員会からの報告―

○滝沢 牧子[1,2,3]
[1]千葉大学医学部付属病院 医療安全管理部、[2]千葉大学大学院医学研究院 医療の質・安全学、[3]全国医学部長病院長会議 患者安全推進委員会

13:20〜13:40　理事長講演　　司会：滝沢 牧子（千葉大学医学部附属病院／千葉大学大学院医学研究院）

○中島 和江
大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部

13:50〜15:20　パネルディスカッション 18　　座長：杉山 良子（医療安全全国共同行動）
高田 誠（株式会社オーセンティックス）

転倒転落を解決する４つの新しいアプローチ
―問題を捉えなおし、生成AIやICTを活用する―

1　なぜ患者は転倒するのか ―患者の認知バイアスから問題と対策を捉え直す―
○上野 正子
神戸徳洲会病院 医療安全対策室

2　ケアの本質　―その人の生活の質と安全を両立させるために―
○大河 正美
金沢医科大学病院

3　ICTを用いた生産性向上　～見守りと情報共有の効率化 ～
○高瀬 園子
NTT東日本関東病院 看護部

4　転倒転落対策に関する現場の暗黙知を元にした生成AIの活用
○初雁 卓郎、奥 俊介、川口 潤
パラマウントヘルスケア総合研究所

15:30〜16:30　特別講演 4　　座長：宮崎 浩彰（関西医科大学 医療安全管理センター）

謙虚なリーダーシップ～「自分は正しい！！？？？」

○畑埜 義雄
和歌山県立医科大学／畑埜クロスマネジメント

第2会場　アクリエひめじ　2F　中ホール

8:30〜10:00　パネルディスカッション 19　座長：田中 和美（群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学）
相馬 孝博（群馬大学大学院医学系研究科）

【教育委員会企画】
激論！多職種が学ぶ医療安全カリキュラムとは

1　医療安全管理者は何を学び続けるのか
―現場実践から考えるコンピテンシーと育成支援―
○荒井 有美
北里大学病院 医療安全推進室

2　中小規模病院における医療安全管理者の育成
―兼任と専従、それぞれの強みを活かす組織づくり―
○林 知江美
医療法人社団志高会 三菱京都病院 医療安全管理部

3　医療安全管理者に求められるコンピテンシーを考える
―医療安全管理者養成研修と実践をつなぐ評価の視点
○西村 礼子[1,2]
[1]日本看護系大学協議会、[2]東京医療保健大学

10:10〜11:40　大会企画パネルディスカッション 2
座長：宇田 淳（滋慶医療科学大学大学院）
大石 裕子（大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部）

医療の質・安全を高めるAI活用 ― HITO病院とツカザキ病院の実践から学ぶ

1　生成AIを活用した病院業務改革と 医療の質・安全
○佐伯 潤
社会医療法人石川記念会HITO病院

2　一般急性期病院における大規模眼科手術安全管理AIシステムの開発と実装の取り組みの実際
○田淵 仁志[1,2]
[1]ツカザキ病院眼科、[2]兵庫医科大学

12:00〜12:50　教育セミナー8　座長：鮎澤 純子（九州大学病院 ARO次世代医療センター）

「医療安全を支える実践」― 安全な医療提供を目指して ―

1　「薬剤を正しく知ることから始める医療安全」
― 安全な取り扱いと適正使用を考える ―
○荒井 有美
北里大学病院 医療安全推進室

2　外来化学療法をもっと安全に、もっとスマートに
～薬物療法業務支援システムによる看護DXの実践～
○東谷 朗子
医療法人渓仁会手稲渓仁会病院 看護部

共催：テルモ株式会社

13:50〜14:50　**特別講演 5**　　座長：亀森 康子（自治医科大学附属さいたま医療センター医療安全・渉外対策部）

医療安全と医療倫理 〜選べること・選べないこと〜

○金城 隆展
琉球大学病院 地域・国際医療部

15:00〜16:30　**シンポジウム 3**　　座長：北村 温美（大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部）
高橋 敬子（兵庫医科大学 医学部 医療クオリティマネジメント学）

レジリエンス・エンジニアリングに基づく安全管理を実装する
〜評価，実践，アウトカムに関する多職種からの提言〜

1　日常臨床業務を科学する、レジリエント・ヘルスケアのキーエッセンス

○北村 温美
大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部

2　医療チームにおける情報の流れを再デザインする
―自律分散型チームのレジリエンス―

○佐藤 仁
横浜市立大学附属市民総合医療センター

3　感染制御におけるレジリエンス・エンジニアリングの実装
〜医療安全との連携の視点から〜

○小野 和代
東京科学大学病院 医療安全管理部

4　薬剤師業務におけるレジリエンス・エンジニアリングの実装
－協働による適応キャパシティ拡張の実践－

○勝亦 秀樹
横浜市立大学附属市民総合医療センター薬剤部

5　急性期リハビリテーション医療での実装 ― 分析と評価の実践事例

○笹沼 直樹
兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部

第3会場　アクリエひめじ　2F　小ホール

8:30〜9:30　一般演題（口演）17　研究発表

座長：杢代 馨香（武蔵野赤十字病院 医療安全推進室）
小泉 俊三（一般財団法人東光会 総合医学研究所）

転倒転落リスク評価ツール・予測モデル

0-17-1　院内小児転倒・転落におけるPECARN 頭部外傷ルールの適用可能性
-インシデントレポートを用いた後方視的解析-
○星出 まどか[1,2]、矢賀 和子[1]、櫻井 倫代[1]、石川 佳子[1]、渡谷 祐介[1]
[1]山口大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部、[2]山口大学大学院医学系研究科小児科学講座

0-17-2　転倒転落アセスメントツールの妥当性評価と再改定に向けた課題
○小西 美緒[1]、鈴木 めぐみ[1]、佐藤 賢太[2]、三浦 純男[1]
[1]社会福祉法人三井記念病院 医療安全管理部、[2]社会福祉法人三井記念病院 TQM部

0-17-3　転倒転落患者と静脈血栓リスク評価の関連
○山本 尚人
浜松医療センター 血管外科、医療安全管理室

0-17-4　医療の質指標における転倒・転落発生率計測方法の差異に関する検討
○中部 貴央[1]、鳥羽 三佳代[2]、工藤 篤[3]、植田 孝介[4]、大石 裕子[5]、熊田 恵介[6]、深見 達弥[7]、後 信[8]、西平 淳子[9]
[1]東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター、[2]東京科学大学 理事等支援組織 医療本部、
[3]東京科学大学大学院 医歯学専攻・環境社会医歯学講座 医療安全管理学分野、
[4]北海道大学病院 患者安全推進部、[5]大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部、
[6]岐阜大学医学部附属病院 医療安全管理室、[7]島根大学医学部附属病院 医療安全管理部、
[8]九州大学病院 医療安全管理部、[9]琉球大学大学院 医学研究科麻酔科学講座

0-17-5　循環器疾患入院患者における転倒リスク層別化
—独立関連因子の同定と2段階カットオフ転倒リスクスコアの開発—
○久世 洋嗣[1]、片岡 恵美[2]、小山 裕[3]、松尾 仁司[4]
[1]岐阜ハートセンター リハビリテーション科、[2]岐阜ハートセンター 看護部、
[3]岐阜ハートセンター 心臓血管外科、[4]岐阜ハートセンター 循環器内科

0-17-6　YOLOと幾何学的特徴量を用いた放射線室内転倒前リスク定量化の実現可能性
○高木 剛司[1]、大井 邦治[2]、岩城 龍平[3]、木藤 善浩[4]、川田 秀道[1]
[1]純真学園大学、[2]国立病院機構九州医療センター、[3]岩手医科大学附属病院、[4]信州大学医学部附属病院

9:40〜10:40　一般演題（口演）18　研究発表

座長：田村 彰（和歌山県立医科大学 医療安全推進部）
飯干 泰彦（滋慶医療科学大学大学院 医療管理学研究科）

生体情報モニタ・アラーム管理

0-18-1　クラスタリングを用いた生体情報モニタに関するインシデントレポートの分析
○木田 奈々美[1]、木田 博太[2]、上野山 充[2]
[1]滋慶医療科学大学 医療科学部臨床工学科、[2]大阪急性期・総合医療センター 臨床工学室

0-18-2　生体情報モニタにおけるアラームの持続時間分布：
Kaplan-Meier法による可視化の有用性
○中井 歩[1,2]、中原 智美[1,3]、白山 佐江子[1,3]、矢内 敏道[1,3]、山名 哲郎[1,4]
[1]JCHO東京山手メディカルセンター医療機器・用具安全管理部会、
[2]JCHO東京山手メディカルセンター臨床工学部、[3]JCHO東京山手メディカルセンター看護部、
[4]JCHO東京山手メディカルセンター大腸肛門外科

0-18-3　心電図モニターアラームに関する看護師の認識および管理の現状調査
○佐藤 望美、岩田 真由、渡邉 来琉、田村 璃紗、柳田 早苗
獨協医科大学病院 看護部

O-18-4　経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO2) モニター装着・離脱基準導入によるテクニカルアラーム削減への取り組み

○大橋 幹子、民谷 宏美、水野 泰子、古田 智佳、森 純子、瀬下 雄平、家城 護、西村 俊郎、砂子阪 肇
厚生連高岡病院 医療安全管理部

O-18-5　病棟におけるアラーム配信システムの実用性検証：DX化のジレンマ

○富永 あや子[1]、冨田 晴樹[2]、寺井 久珠[3]、石田 岳史[4]
[1]社会医療法人さいたま市民医療センター臨床工学科、[2]ともハートクリニック、[3]日本光電工業株式会社、[4]東京科学大学総合診療科

**O-18-6　ICUにおけるアラーム疲労の定量評価に向けて
―日本語版Charité Alarm Fatigue Questionnaire(CAFQa)の異文化間適応と多施設妥当性検証―**

○佐藤 智夫[1]、石関 美津子[2]、片岡 裕貴[3]、染小 英弘[4]、佐藤 宏樹[5]、南 宏太[6]、金子 隆生[7]、武田 親宗[8]、クロスビー アダム[2]
[1]近畿大学、[2]神戸市看護大学、[3]名古屋大学、[4]名古屋徳洲会総合病院、[5]川崎医療福祉大学、[6]佐賀大学医学部附属病院、[7]山形県立中央病院、[8]京都大学医学部附属病院

10:50〜11:40　一般演題（口演）19　研究発表

座長：金子 友子（公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター）
遠田 光子（日本医療機能評価機構 教育研修事業部）

報告文化・組織風土に関する調査

O-19-1　日本版医療安全文化調査票2.0（J-HSOPS 2.0）の心理測定的特性：全国多施設横断研究

○畠山 洋輔、瀬戸 加奈子、大西 遼、黄 辰悦、林 凌甫、長谷川 友紀
東邦大学医学部社会医学講座

O-19-2　県内病院における医療安全インシデント報告構造の可視化と行政による改善支援の試み

○林 潤[1]、鈴村 滋生[2]、山田 全啓[3]
[1]奈良市健康医療部医療政策課、[2]奈良市健康医療部、[3]奈良県中和保健所

**O-19-3　当院におけるインシデント・アクシデントレポート報告に関する意識調査
〜職種別でのレポート報告に影響する要因〜**

○松岡 慎吾、髙橋 勇貴
公益社団法人 地域医療振興協会 東京北医療センター リハビリテーション室

O-19-4　Good Job報告を活用した安全文化醸成への取り組み

○山本 将太、浜野 孝、森 恵理、大木島 尚弘、秋田 武宏、小出 昌秋
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院 安全管理室

O-19-5　配置転換による環境変化のなかで安全を守る

○長村 千春、三橋 歩、伊藤 一美
珠光会 聖ヶ丘病院

13:50〜14:40　一般演題（口演）20　活動報告

座長：豊田 郁子（イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院 医療安全対策室）
浦松 雅史（東京医科大学 医療の質・安全管理学分野）

医療事故対応・患者対話推進の実践

O-20-1　医療安全部門と連携した院内医療メディエーター介入事例の検討 ―職員のコンフリクト認識と依頼経路の分析―

○松山 晃代[1]、川谷 弘子[1]、荒井 有美[2]、東海林 ちえみ[3]
[1]北里大学病院トータルサポートセンター患者の声相談室、[2]北里大学病院医療安全推進室、
[3]北里大学病院医療支援部

O-20-2　医療安全推進室と患者家族医療対話推進室との連携

○笹 志寿子[1]、柳 貞光[2]、岩佐 美可[2]、赤木 理恵子[2]
[1]神奈川県立こども医療センター医療安全推進部医療安全推進室、
[2]神奈川県立こども医療センター患者家族医療対話推進室

O-20-3　病院患者相談窓口から感じた船橋市医療安全支援センターがもたらしたもの

○川瀬 敦
北習志野花輪病院 患者相談窓口

O-20-4　患者側がAIを活用した苦情申し立てに対する対話促進の一考察

○吉田 和子
武蔵野徳洲会病院 医療安全管理室

O-20-5　合併症発症後補償を求めた患者対応〜なんちゃってメディエーター奮闘記録〜

○芝野 靖司
社会医療法人生長会 泉大津急性期メディカルセンター クオリティ管理センター 患者支援室

14:50〜15:40　一般演題（口演）21　活動報告

座長：和佐 勝史（滋慶医療科学大学大学院）
江原 一雅（滋慶医療科学大学大学院 医療管理学専攻）

転倒転落の特殊事例対応と現場改善活動

O-21-1　排泄行動に着目した転倒転落防止の取り組み ―看護計画の個別化の推進と安全な移乗・移動介助の標準化―

○鈴木 美佐、寺尾 さか江、長谷川 智美、山本 希、加藤 清美、荻島 真弓
順天堂大学医学部附属静岡病院

O-21-2　転院患者の医療安全確保に向けた取り組み ～入院時支援看護師による入院時初期対応の実践～

○田中 智恵、宮地 美樹子、曽根 知恵
中国電力株式会社中電病院看護科

O-21-3　循環器専門病院における転倒転落・チューブ自己抜去件数減少に向けた取り組み

○齊藤 真佐美、小林 敏子、冨永 渚、大川 夕貴
医療法人邦友会 小田原循環器病院

O-21-4　医療安全のGood Point収集における質問設計の工夫 ―GPETラウンド活動の試み―

○深田 良一、中村 紳一郎、蘆田 里美
市立福知山市民病院

O-21-5　スマートベッドシステム導入後の活用推進に向けた1年間の取組み　転倒重症度低減の効果と今後の課題

○若宮 都子、村田 有紀、石黒 博也、榊原 真理、福元 鳴代
知多半島総合医療センター

第4会場　アクリエひめじ　1F　展示場C

8:30〜10:00　学会連携企画パネルディスカッション 5

座長：小林 美亜（山梨大学医学部附属病院 病院経営管理部）
荒井 康夫（北里大学 未来工学部、大学院未来工学研究科、メディカルインフォマティクス研究室）

【日本クリニカルパス学会】
クリニカルパスによる医療マネジメント―質・安全・経営・患者参画の融合―

1　クリニカルパス医療の基本〜きっとあなたも勘違いしている？〜
○今田 光一
黒部市民病院 臨床スポーツ医学センター

2　クリニカルパスによる医療の質改善 ― 実践から考える ―
○荒井 康夫
北里大学 未来工学部 データサイエンス学科

3　医療の質と経営の質を両立するクリニカルパス
○櫃石 秀信
川崎医療福祉大学医療福祉経営学科

4　「説明するパス」から「ともにつくるパス」へ
―患者参画を支えるクリニカルパスの新たな役割―
○小林 美亜
山梨大学医学部附属病院 病院経営管理部

10:10〜11:40　学会連携企画パネルディスカッション 6

座長：小林 美亜（山梨大学医学部附属病院 病院経営管理部）
荒井 康夫（北里大学 未来工学部、大学院未来工学研究科、メディカルインフォマティクス研究室）

【日本診療情報管理学会】
診療データで医療安全を守る - 情報管理と質改善の協働

1　病院の質改善を支える診療情報管理 - データの信頼性と活用
○瀬尾 善宣、中村 博彦
社会医療法人医仁会 中村記念病院

2　記録から価値創造へ　―診療データ活用が拓く質改善と患者安全―
○森崎 真美、牛島 久美子
社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院

3　診療データを医療安全・質改善に活かす〜患者参加の視点から〜
○田中 和美
群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学

4　診療情報管理と医療安全の協働 ― 実践経験と ICD-11 活用の可能性 ―
○荒井 康夫
北里大学未来工学部データサイエンス学科

12:00〜12:50　教育セミナー9　　座長：林 尚三（公益社団法人有隣厚生会富士病院）

穿刺困難（DIVA）から患者を救うニューノーマル エコーガイド下静脈穿刺の教育体制の構築とその成果

○岡村 英明
NTT東日本札幌病院 診療支援部 診療看護師室

共催：ニプロ株式会社

13:50〜14:40　一般演題（口演）22　活動報告　　座長：中島 勧（埼玉医科大学総合医療センター医療安全管理学）
田中 宏幸（兵庫医科大学病院 医療安全管理部）

外来・病棟における転倒転落防止の実践

O-22-1　多職種による外来患者の転倒予防に対する取り組み

○澤井 直子、濱田 亜沙美、村嶋 一歩、長尾 能雅
名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部

O-22-2　転倒・転落リスク評価における短縮版スコアと看護師の総合的判断導入の試み

○吉水 輩子[1]、白濵 隆太[1]、廣野 圭司[1]、勝亦 秀樹[1]、宇野 洋司[1]、脇山 瑤子[1]、佐藤 仁[1]、安部 猛[1,2]、中村 京太[1]
[1]公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター 医療の質・安全管理部、
[2]福島県立医科大学 総合科学教育研究センター

O-22-3　外来患者に対する転倒インシデント低減への取り組み ～介入ポイントを絞った多職種協働～

○長谷川 泰代、池田 朋
九州大学病院 看護部 総合外来

O-22-4　転倒・転落防止プロセスの遵守に向けた対策の実施

○谷 篤人、北野 由起恵、赤﨑 順治、平沼 早苗
加古川中央市民病院看護部

O-22-5　「転倒転落対策を特別ではなく日常へ」 ～多職種で取り組む転倒転落対策についての活動報告～

○大久保 勇紀[1]、飛田 敏郎[2]、佐久間 紀香[3]、髙島 真純[4]、飯坂 幸子[3]、齊藤 恵介[1]、三浦 麻美[3]、坪谷 夢音[5]、岸 悠平[6]、金子 由香子[7]
[1]医療法人社団愛友会伊奈病院 リハビリテーション技術科、[2]医療法人社団愛友会伊奈病院 診療部、
[3]医療法人社団愛友会伊奈病院 看護部、[4]医療法人社団愛友会伊奈病院 薬剤部、
[5]医療法人社団愛友会伊奈病院 臨床工学科、[6]医療法人社団愛友会伊奈病院 事務部、
[7]医療法人社団愛友会伊奈病院 医療安全管理課

15:00〜16:30　パネルディスカッション 20
座長：森谷 康志（公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 薬剤本部）
柴田 啓智（社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 薬剤部）

その薬、本当に大丈夫？ ― 症例で読み解く Medication Reconciliation／Review の実践と多職種の役割

1　抗がん剤だけ見ていて大丈夫？外来化学療法室での薬剤情報の落とし穴

○榎本 英明
聖路加国際病院薬剤部

2　病棟におけるチーム医療：SGLT-2阻害薬の例から

○鈴木 啓一郎
公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 薬剤本部

3　**薬物療法プロセスの安全性を高める ― 医療安全の立場から ―**

○佐々 扶美[1,2]、中嶋 いくえ[2]、築地 さなえ[2]、徳永 晃己[1]、佐々 利明[2]、吉田 健一[2]、村中 裕之[2]、柴田 啓智[1]
[1]済生会熊本病院 薬剤部、[2]済生会熊本病院 医療安全管理室

4　**チーム医療で支えるMedication Reconciliation / Medication Review：多職種連携の実践と課題**

○石塚 寛和
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 薬剤部

第5会場　アクリエひめじ　1F　展示場B

8:30〜10:00　パネルディスカッション 21

座長：松村 由美（京都大学医学部附属病院 医療安全管理部）
太田 美紀（国立医薬品食品衛生研究所）

【医薬品医療機器放射線安全委員会（医薬品部会）企画】
医療安全情報の活かし方―多様なステークホルダーによる協働―（PMDA との共同企画）

1　報告事例から医療安全情報へ〜医療事故情報収集等事業の取り組み〜
○坂口 美佐
日本医療機能評価機構医療事故防止事業部

2　医療安全に関するPMDAの取り組み
○内山 知香
独立行政法人医薬品医療機器総合機構 安全性情報・企画管理部リスクコミュニケーション推進課

3　医療安全向上に向けた製薬企業の取り組みと医療現場への期待
○野口 正浩
日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 PV／C専門ユニット（アステラス製薬株式会社）

4　行動につながる"医療安全情報の循環"を実現するためには
○板井 進悟
金沢大学附属病院医療安全管理部

10:10〜11:40　パネルディスカッション 22

座長：山口（中上）悦子（国際医療福祉大学大学院／医学部（医療の質・安全学））
和佐 勝史（滋慶医療科学大学大学院）

【学術委員会、学会誌編集委員会企画】
学術のススメ〜現場の実践や経験を共有し、学会発表や論文にも挑戦してみよう！

1　現場の実践知を学術活動へつなぐ意義
○飛田 伊都子
大阪医科薬科大学 看護学部

2　共に学び共に育つ環境が患者安全の質を高める〜学術支援する立場から〜
○舟越 亮寛
医療法人鉄蕉会亀田総合病院

3　多職種で取り組む医療安全活動を学術へ―実践から生まれる研究―
○新谷 拓也
大阪大学医学部附属病院 薬剤部

4　診療放射線技師による大学院での学びと研究の臨床への展開
○本城 進也
社会医療法人 緑風会 緑風会病院 放射線科

5　実践の共有と学術活動 〜社会人大学院生の立場から〜
○田中 明日花
聖路加国際病院 麻酔科

12:00〜12:50　**教育セミナー10**　　座長：宮﨑 浩彰（関西医科大学 医療安全管理センター）

現場の「気づき」を育て、対話で紡ぐ医療安全文化の醸成をめざして

○乙名 さおり
JCHO星ヶ丘医療センター 看護部／医療安全管理室

共催：株式会社メディシステムソリューション

13:50〜14:40　**一般演題（口演）23**　活動報告　　座長：綾部 貴典（宮崎大学医学部附属病院 医療安全管理部）
工藤 篤（東京科学大学大学院 医療安全管理学分野）

モニタ・アラーム関連の個別改善と情報連携

0-23-1　セントラルモニタログ解析によるアラーム頻発要因の検討

○高見澤 和樹[1]、廣勢 健二[1]、山崎 春華[1]、土屋 陽平[1]、塚本 功[1]、枡岡 歩[2]
[1]埼玉医科大学国際医療センター臨床工学部、[2]埼玉医科大学国際医療センター医療安全対策室

0-23-2　生体情報システム、ナースコールシステム、スマートフォン連動の取り組み〜看護業務の効率化と患者の安全の向上を目指して〜

○坂本 美穂、丸山 裕子、西田 綾子、井上 香織、満園 智加、向井 比呂子、今村 直子、高松 真由美、大嶋 由紀
社会福祉法人恩賜財団済生会支部 済生会福岡総合病院 看護部

0-23-3　心電図モニター管理体制の見直しによるアラーム対応の改善

○山中 七子、藤木 沙綾
名古屋徳洲会総合病院循環器内科

0-23-4　心臓血管外科・循環器病棟における電波切れアラーム減少に向けた段階的介入の効果検討

○村瀬 詩織[1]、川村 茂之[1]、明田 茂[1]、本多 忠信[1]、長谷川 穂高[1]、江間 信吾[1]、中島 芳樹[2]
[1]浜松医科大学医学部附属病院 医療機器管理部、[2]浜松医科大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科

0-23-5　手術出棟時チェックリストの院内統一による申し送り簡略化の効果とインシデントへの影響

○石森 薫、三淵 未央、小原 真琴
地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 周術期管理チーム

15:00〜16:30　**パネルディスカッション 23**　　座長：小山 昌利（名古屋市立大学大学院）
石田 岳史（東京科学大学病院 総合診療科）

生体情報モニタの安全な管理を目指して
〜「現場の困りごと」から「組織の標準化」への提言〜

1　第20回医療の質・安全学会パネルディスカッション 参加者を対象としたアンケート調査

○小山 昌利
名古屋市立大学大学院

2　一施設の実践から次世代の医療安全へ　〜現場の試行錯誤と知見の共有〜

○富永 あや子
社会医療法人さいたま市民医療センター臨床工学科

3　現場に根付かせるアラーム安全文化〜看護部門からの実践報告と提言〜

○水谷 卓史[1]、天野 哲也[2]、福井 高幸[3]、内藤 千裕[2]、勝 啓佑[4]、前野 照子[1]
[1]愛知医科大学病院 看護部、[2]愛知医科大学病院 循環器内科、[3]愛知医科大学病院 呼吸器外科、[4]愛知医科大学病院 臨床工学部

4　**生体モニター教育のあり方**

○長谷川 剛
エルゼビアジャパン株式会社

5　**アラーム関連訴訟の分類とMACT活動の意義**

○工藤 篤、鳥羽 三佳代
東京科学大学大学院 医療安全管理学分野

第6会場　アクリエひめじ　1F　メインスタジオ

8:30〜10:00　パネルディスカッション 24

座長：大谷 恭平（加古川中央市民病院 精神神経科／認知症疾患医療センター）
樫林 哲雄（兵庫県立リハビリテーション西播磨病院認知症疾患医療センター・精神科）

抗アミロイドβ抗体治療時代の認知症医療安全
―ARIA管理・放射線科連携・持続可能な診療体制の構築―

1　大学病院認知症疾患医療センターにおける抗アミロイドβ抗体薬治療の導入と安全管理体制の構築

○宇和 典子[1,2]
[1]兵庫医科大学医学部精神科神経科学講座、[2]兵庫医科大学病院認知症疾患医療センター

2　抗アミロイド抗体薬の副作用管理を踏まえた当院での運用経験

○森本 耕平[1,2]
[1]神戸大学大学院医学系研究科バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学、
[2]神戸大学大学院医学系研究科脳神経内科学

3　精神科医が担う抗アミロイドβ抗体治療
―ARIA・輸注関連反応（Infusion reaction）のチーム管理と多職種協働―

○樫林 哲雄
兵庫県立リハビリテーション西播磨病院認知症疾患医療センター

4　抗アミロイドβ抗体治療の医療経済的課題と診療体制の持続可能性

○大谷 恭平
加古川中央市民病院精神神経科／認知症疾患医療センター

10:10〜11:40　パネルディスカッション 25

座長：棟近 雅彦（早稲田大学理工学術院）
松村 由美（京都大学医学部附属病院）

医療安全管理者，QMS(TQM)推進者のマネジメント能力を活かす
ー人事ローテーションによる現場マネジメント能力の向上ー

1　医療安全管理者として培った経験を現場改善へつなぐ
―人事ローテーションを通した病棟マネジメントの実践―

○佐野 美和子
飯塚病院

2　医療安全管理室と現場をつなぐ双方向の人材育成
―ローテーション勤務の意義と課題―

○飯田 恵
京都大学医学部附属病院 医療安全管理部

3　国立病院機構埼玉病院におけるTQM推進者の活用

○澁澤 盛子
国立病院機構埼玉病院

12:00〜12:50　教育セミナー11

座長：本間 崇（善仁会グループ）

モニターアラーム管理の実践：偽陽性削減から安全文化の醸成まで

○北方 基一
市立伊丹病院 医療技術部 臨床工学室

共催：フクダ電子株式会社

13:50〜14:40　一般演題（口演）24　活動報告

座長：寺井 美峰子（医学研究所北野病院 看護管理室）
飛田 伊都子（大阪医科薬科大学看護学部）

身体的拘束最小化への取り組み

0-24-1　当院における身体的拘束最小化の取り組みについて

○矢尾 淳[1]、喜來 愛[2]、久保 菜穂子[2]、飯田 晋自[2]、櫻井 博晶[3]、大星 麻衣[4]、山口 薫[1]、野村 真弓[5]、小長井 あゆみ[6]、中原 杏奈[7]
[1]関東労災病院救急科、[2]関東労災病院看護部、[3]関東労災病院神経内科、[4]関東労災病院循環器内科、[5]関東労災病院中央リハビリテーション部、[6]関東労災病院薬剤部、[7]関東労災病院精神科

0-24-2　A病院における身体的拘束適正化への実践報告 〜身体的拘束カンファレンステンプレートの作成と運用〜

○古川 佳子、藤原 友紀、池田 恵子、宮地 由美子
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館

0-24-3　選択的記録方式への変更が身体的拘束の要因を可視化することに寄与した

○村田 康介[1]、曽和 晃正[2]、西 政治[1,2]、山本 純史[2,3]、豊田 真紀[1]、上野 恵[1]
[1]南労会紀和病院看護部、[2]南労会紀和病院身体的拘束最小化チーム、[3]南労会紀和病院医療安全管理室

0-24-4　身体拘束低減に向けた身体拘束最小化チームの組織的介入

○田中 美穂[1]、横山 晋二[1]、高瀬谷 徹[1]、早川 晴美[1]、合原 則隆[1]、執行 素美[1]、高野 正代[2]、西村 知子[2]、平井 美代子[2]、広田 桂介[3]
[1]久留米大学病院医療安全管理部、[2]久留米大学病院看護部、[3]久留米大学病院リハビリテーション部

0-24-5　広島県における地域フォーミュラリ推進事業

○永澤 昌[1]、中西 敏夫[1,2]、安信 祐治[2]、山口 伸二[1]、郷力 和明[3]、鎌田 耕治[4]、中島 浩一郎[4]、立本 直邦[1]
[1]市立三次中央病院、[2]三次地区医療センター、[3]庄原市立西城市民病院、[4]庄原赤十字病院

15:00〜16:30　パネルディスカッション 26

座長：山本 啓央（北里大学病院 医療安全推進室／北里大学医学部 小児科学）
山口（中上）悦子（国際医療福祉大学 大学院／医学部（医療の質・安全学））

「確認」を確認する

1　「6R」を確認する

○山本 啓央[1,2]
[1]北里大学病院 医療安全推進室、[2]北里大学医学部 小児科学

2　「患者確認」を確認する

○市川 真由美[1,2]
[1]名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部、[2]名古屋大学医学部附属病院 看護部

3　「機能するダブルチェック」を確認する

○菊田 裕規[1,2]
[1]大阪医科薬科大学病院 薬剤部、[2]大阪医科薬科大学病院 医療総合管理部 医療安全推進室

4　「確認」する医療者の「心」を確認する

○山口（中上）悦子
国際医療福祉大学 大学院／医学部（医療の質・安全学）

第7会場　アクリエひめじ　4F　401＋402＋403

8:30〜10:00　パネルディスカッション 27

座長：貝沼 関志（稲沢市民病院 医療の質管理部）
北野 文将（名古屋大学）

カルテ開示の積極的意味とペイシェントハラスメントにおける安全配慮義務

1　患者中心の医療実現のための一般病院におけるカルテ開示・カルテ共有
○安田 あゆ子
国立病院機構名古屋医療センター呼吸器外科・医療安全管理部

2　患者安全からみたカルテ開示の意義と問題点
○南須原 康行
北海道大学病院患者安全推進部

3　ペイシェントハラスメントの可能性のある事例でのカルテ開示
○貝沼 関志
稲沢市民病院 医療の質管理部

4　カルテ開示はどの範囲まで必要か？
○平野 順子
稲沢市民病院

5　カルテ開示に関わる法的問題
○北野 文将
名古屋大学医学部付属病院 患者安全推進部

10:10〜11:40　パネルディスカッション 28

座長：小泉 俊三（Choosing Wisely Japan）
井部 俊子（聖路加国際大学）

看護ケアにおける Choosing Wisely ― 看護の「業務」と「質」を問う

1　座長コメント1
○小泉 俊三
Choosing Wisely Japan

2　座長コメント2
○井部 俊子
聖路加国際大学

3　日本クリティカルケア看護学会としての活動をスタートさせて
○宇都宮 明美
日本クリティカルケア看護学会

4　精神保健看護における Choosing Wisely
― 見直すべき実践から看護の質を考える ―
○武用 百子
日本精神保健看護学会

5　看護系学会における Choosing Wisely の現状と課題
－日本看護系学会協議会の調査から
○吉田 俊子
日本看護系学会協議会

12:00〜12:50　**教育セミナー12**

座長：水野 篤（聖路加国際病院 心血管センター・循環器内科 QI センター・医療の質管理室）

次世代末梢静脈カテーテルと輸液アセスメントプログラムの導入

○松橋 詩織
JCHO東京高輪病院 診療部 循環器内科

共催：日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

13:50〜14:30　**一般演題（口演）25**　研究発表

座長：大磯 義一郎（浜松医科大学医学部法学教室）
南須原 康行（北海道大学病院 医療安全管理部）

医療事故調査制度・医療訴訟の実務

0-25-1　医療事故調査制度の不報告事例に関する調査報告
〜医療の質・安全学会の会員アンケートから
○畑中 綾子
尚美学園大学

0-25-2　看護師である医療安全管理者が医療事故対応の経験から得た実践知
○長谷川 久美子[1]、別所 一彦[2]、平河 勝美[2]
[1]京都済生会病院 医療安全管理部、[2]滋慶医療科学大学大学院

0-25-3　医療訴訟におけるエビデンスレベルの考慮
○山崎 祥光
弁護士法人御堂筋法律事務所

0-25-4　当院医療安全管理室における全死亡患者事例の検討の現状と課題
○榎本 武治、鈴木 規雄、白井 白百合、梅野 直哉、小川 真希、福澤 知子、有木 宏宗、本鍋田 由美子、古田 繁行、峯下 昌道
聖マリアンナ医科大学病院 医療安全管理室

15:00〜16:30　**パネルディスカッション 29**

座長：徳平 夏子（国立循環器病研究センター）
新田 雅彦（大阪医科薬科大学）

小児医療における質と安全管理の構造的課題を抽出する：多施設からの学び

1　企画趣旨：小児医療を病院全体のシステムから捉え直すには
○徳平 夏子[1]、新田 雅彦[2]
[1]国立循環器病研究センター、[2]大阪医科薬科大学 医療安全推進室

2　小児版鎮静剤使用手順作成から見えてきた小児医療安全管理における取り組みと課題 〜内科医・医療安全管理者の立場から〜
○渡辺 徹也[1,2]、徳和目 篤史[2]、高橋 正也[2]、山口（中上）悦子[3]
[1]大阪公立大学大学院医学研究科 医療の質・安全管理学、
[2]大阪公立大学医学部附属病院 医療安全センター 医療の質・安全管理部、
[3]国際医療福祉大学 大学院／医学部（医療の質・安全学）

3　小児病棟における薬剤関連インシデント分析から見えた課題
〜血管外漏出の発生要因と対策の検討〜
○箱田 美知恵
北里大学病院 看護部

4　小児医療の課題と取り組み〜薬剤について―総合病院・小児科医〜
○冨田 健太朗
慶應義塾大学病院小児科

5　小児病院における薬剤管理の落とし穴
―インシデント事例から考える治療継続性の確保と多職種・家族協働―

○濱田 羊奈
地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 医療安全管理室

第8会場　アクリエひめじ　4F　407

8:30〜10:00　**パネルディスカッション 30**　座長：綿貫 聡（医療法人社団おうちの診療所）
栗原 健（名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部）

チームで育む診断の安全性：SDGs・NCDs時代におけるプライマリ・ケアでの「Measure Dx」の活用

1　**Measure Dx日本語版（診断の安全性に関する事象を特定して分析し、学びを得るためのリソース）の紹介**
○綿貫 聡
医療法人社団おうちの診療所

2　**診断の安全性を政策課題として捉える**
○栗原 健
名古屋大学医学部附属病院患者安全推進部

3　**救急外来における診断の安全性の測定と改善**
―品質管理手法のエイトステップを用いた脳梗塞見逃し防止の取り組み―
○島戸 真司
知多半島総合医療センター 脳神経外科／医療安全管理室

4　**診療の安全性をどう測り、改善につなげるか：臨床工学技士の視点**
○畔柳 信吾
碧南市民病院 医療安全管理室

5　**診療の安全性をどう測り、改善につなげるか：看護師の視点**
○杉本 直樹
埼玉医科大学国際医療センター 医療安全対策室

6　**Measure Dx日本語版を医療現場に実装するために必要なこと**
○原田 侑典
獨協医科大学総合診療医学

10:10〜11:40　**パネルディスカッション 31**　座長：長谷川 剛（エルゼビアジャパン）
野口 悟司（株式会社日経サービス メディカルサポート部）

委託スタッフを含めた医療安全体制の再構築
―病院と委託スタッフの協働が支える安全な医療―

1　**病院職員だけでは、病院は動かない**
○齋藤 篤
大阪大学医学部附属病院材料部

2　**全員で質を高める医療安全―ゼロインシデントがつなぐ会話と評価会議**
○宮本 有紀子
医療法人宝生会PL病院手術部中央材料室

3　**委託から協働へ―医療機器管理業務における委託会社の医療安全への貢献―**
○吉田 聖希
株式会社ムトウテクノス

4　**根っこで繋がる医療安全〜双方のぶれない軸〜**
○藤原 志保
株式会社日経サービス 兵庫県立がんセンター中央材料室

5　医療安全は誰のため？ ～受託企業の意義～
○大町 智之
ワタキューセイモア株式会社 メディカル営業本部 請負事業部 滅菌管理課

12:00～12:50　教育セミナー13

データを「優しさ」に変える実践現場のDX
～NEWSスコア・RRT連携と身体拘束低減からみた、データ活用による「上質な医療」の実践～

○河嶋 知子
独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院 看護部

共催：パラマウントベッド株式会社

13:50～14:40　一般演題（口演）26　研究発表

座長：中村 京太（横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部）
石松 一真（滋慶医療科学大学大学院医療管理学研究科）

医療安全の組織体制・多職種連携分析(Safety-II等)

0-26-1　医療安全支援センターにおける協議会・研修会開催頻度と「地域の医療安全」との関連
○大井 亜希[1]、種田 憲一郎[2]
[1]和歌山市保健所、[2]国立保健医療科学院

0-26-2　職種別にみた医療対話推進者の業務困難感
○本谷 園子[1]、末永 由理[1]、稲葉 一人[2]
[1]東京医療保健大学大学院、[2]中京大学法務研究所

0-26-3　ICUにおけるインシデントレポートのSafety-Ⅱ活用への試み
―FRAM図を用いて―
○井上 響子、飯干 泰彦、戸田 満秋
滋慶医療科学大学大学院

0-26-4　治験撮影における診療放射線技師と治験コーディネーターの協働構造と成功要因の探索 ―Safety-IIの視点から―
○馬淵 龍、大友 沙織、光元 勝彦、大狩 興司
京都大学医学部附属病院 放射線部

0-26-5　集中治療室における臨床工学技士配置と医療機器安全に関する管理者の意識調査
○田中 太郎[1,2]、伊藤 潤[1,2]、加藤 慎章[1]、須藤 康子[1]、大石 雅子[2]、廣瀬 稔[2]
[1]医療法人医誠会 医誠会国際総合病院 臨床工学部、[2]滋慶医療科学大学大学院 医療管理学研究科

14:50～15:50　一般演題（口演）27　活動報告

座長：笠原 聡子（滋賀医科大学 医学部 看護学科 基礎看護学講座（基礎看護学））
宇田 淳（滋慶医療科学大学大学院）

感染対策・組織運営の基盤整備

0-27-1　在日ベトナム・ミャンマー労働者の麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎の抗体プロファイルと日本人同年齢層との差異および検査・予防接種費用負担の問題提起
○大塚 裕一、藤岡 耕一、神谷 亮吉、神谷 周良、神谷 貴仁、菅野 天斗
医療法人裕徳会 港南台病院

O-27-2　クラスター対応を契機とした高齢者施設の感染対策力向上への取り組み

○菅田 節子[1]、木村 聖子[2]、栁田 大輔[3]、井上 富弥江[4]、柳本 亜由美[5]、岸 鶴代[6]、玄馬 康子[7]、宗宮 昌子[8]
[1]公益財団法人操風会岡山旭東病院、[2]公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院、
[3]一般財団法人 倉敷成人病センター、[4]医療法人平野同仁会総合病院津山第一病院、
[5]井原市立井原市民病院、[6]国立療養所長島愛生園、[7]岡山県看護研修センター、[8]岡山県看護協会

O-27-3　手指衛生推進に向けての活動報告 ～必要な手指消毒回数と実際の手指消毒使用量のギャップを個別にフィードバック～

○目次 香[1,2]、來海 さゆり[2]、松本 恭子[2]、寺島 美奈子[2]、村田 千恵[2]、河﨑 健汰[2]、松本 和恵[2]、上灘 紳子[1,2]、吉藤 歩[1]
[1]鳥取大学医学部附属病院 感染制御部、[2]鳥取大学医学部附属病院 看護部

O-27-4　経営課題を含めた病院方針管理へのTQM推進室の関与

○手島 伸、菊地 正、馬場 由美、新倉 仁、鎌田 俊亮、畠山 伸、犬上 直美、佐久間 篤、西城 信、小関 綾子
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター TQM推進室

O-27-5　診療所におけるQuality Improvement and Safety（QIS）室の設置と医療安全管理の構造化：属人的対応から組織的安全管理へ

○若月 優子、土方 利之
医療法人Plus One 日野みんなの診療所

O-27-6　QIを活用した医療の質および経営改善

○進藤 篤史[1]、西垣 泰典[2]
[1]松下記念病院 TQMセンター、[2]整形外科

第9会場　アクリエひめじ　4F　408

8:30〜10:00　パネルディスカッション 32

座長：河野 龍太郎（株式会社 安全推進研究所）
鈴木 清志（埼玉県総合リハビリテーションセンター 薬剤科）

科学的P4S活動の勧め―理念と科学に基づいた、改善された5S―

1　なぜ、科学的P4S活動を進めるのか
○河野 龍太郎
株式会社 安全推進研究所

2　科学的P4S活動を組織で始める実例と効果
○金子 貴俊[1]、前川 明日香[2]
[1]慶友整形外科病院リハビリテーション科、[2]慶友整形外科病院医療安全推進室

3　科学的P4S活動による診療科改革の試み
―東京女子医科大学病院眼科での導入初期報告―
○長谷川 泰司
東京女子医科大学病院 眼科

4　科学的P4Sの実践とその効果―薬剤部門での開始事例―
○鈴木 清志
埼玉県総合リハビリテーションセンター 薬剤科

10:10〜11:40　シンポジウム 4

座長：鳥羽 三佳代（東京科学大学、医療本部、クオリティ・マネジメント・センター）
小野 和代（東京科学大学病院）

患者安全のための病棟マネジメント
〜安全を保証する最適看護配置実現に向けた分析と医療情報システムの開発〜

1　現場の「気づき」を可視化し、組織につなぐ
〜 Safety-IIの視点から考える看護配置と患者安全〜
○鳥羽 三佳代
東京科学大学、医療本部、クオリティ・マネジメント・センター

2　適正な看護配置がもたらす医療安全と医療の質〜国内外のエビデンスの動向〜
○森岡 典子
国立保健医療科学院 疫学・統計研究部

3　看護配置と患者アウトカムのエビデンスを臨床へ：
現場に根差した看護配置可視化システムの挑戦
○森脇 睦子
東京科学大学 医療本部 クオリティ・マネジメント・センター

4　患者安全を支える意思決定のための医療情報活用
〜診療データを活用した病棟マネジメントと医療DXの新たな展開〜
○内村 祐之
東京科学大学病院 医療情報部

13:50〜14:40　**一般演題（口演）28**　研究発表　座長：松村 泰志（国立病院機構 大阪医療センター）
狩川 大輔（東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻）

処置・医療機器に伴う物理的安全対策

0-28-1　血管造影室における3Gyを超える患者高被ばく症例の推移
○関 優子[1]、岸 和洋[1]、須藤 高行[1]、平澤 裕美[1]、対馬 義人[2]
[1]群馬大学医学部附属病院 放射線部、[2]群馬大学大学院医学系研究科 放射線診断核医学分野

0-28-2　当院における術中異物遺残：23年間の傾向分析
○藤原 晶、岡本 千秋、奥山 静香、植田 孝介、小柳 遼、根岸 淳、堀田 記世彦
北海道大学病院 患者安全推進部

0-28-3　手術用手袋のピンホール発生状況と二重手袋の有用性の検討
○松下 二葉[1]、清水 佑香[1]、西田 真美[1]、藤沼 明日夏[1]、額田 渉[1]、北村 忍[2]
[1]医療法人社団 松和会 池上総合病院手術センター、[2]医療法人社団 松和会 池上総合病院院内感染対策課

0-28-4　MRI検査におけるジェルネイルおよびマグネットネイルの安全性に関する基礎的検討
○小川 智久、木下 友都、佐々木 健
AMG 上尾中央総合病院 放射線技術科

0-28-5　放射線部門におけるインシデント未然防止に向けた診療放射線技師の関与と多職種連携
○岸 和洋[1]、須藤 高行[1]、対馬 義人[2]
[1]群馬大学医学部附属病院放射線部、[2]群馬大学大学院医学研究科放射線診断核医学分野

14:50〜15:50　**一般演題（口演）29**　研究発表　座長：清水 史恵（滋慶医療科学大学大学院 医療管理学研究科）
山﨑 宏人（金沢大学附属病院 医療安全管理部）

報告行動と多様な臨床リスクの実態把握

0-29-1　臨床工学技士業務における未報告インシデントの可視化
○奥村 悠太、林 洋佑、鷲見 美紀、前田 純、大坪 克浩
一宮市立市民病院

0-29-2　看護学生におけるインシデント報告感受性に関するパイロットスタディ ―ケアの倫理的行動および看護学実習の心理的安全性との関連の検討―
○秋山 直美[1]、梶原 志保子[2]、磯村 義人[3,4]
[1]名古屋市立大学大学院看護学研究科、
[2]名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター、
[3]名古屋大学医学部附属病院 看護部、[4]名古屋市立大学大学院看護学研究科 博士前期課程

0-29-3　環境配慮を医療の質の構成要素へ：病院認証における環境基準の統合可能性に関する検討
○ヘンカー 寛子[1]、吉岡 浩太[1]、渡辺 知保[1]、丸山 幸弘[2]
[1]長崎大学プラネタリーヘルス学環、[2]鎮西学院大学総合社会学部

0-29-4　A病院院内患者ベッド搬送の実態と安全上の課題に関する調査報告
○渡邊 俊一[1]、丹山 直人[2]
[1]一般財団法人 平成紫川会 小倉記念病院 安全管理部 安全担当課、
[2]一般財団法人 平成紫川会 小倉記念病院 看護部 看護管理室

0-29-5　一般病棟における患者からの身体的暴力に対する看護師の認識と報告行動
○大江 玲衣[1]、竹本 由香里[2]、江角 伸吾[2]、金子 健太郎[2]
[1]宮城大学大学院看護学研究科博士前期課程、[2]宮城大学看護学群

0-29-6　頚椎前方手術後の挿管帰室が入院成績に及ぼす影響 -DPCデータベースを用いた検討-
○山田 賢太郎[1]、鳥羽 三佳代[2]、田原 龍希[1]、工藤 篤[2]、伏見 清秀[3]、吉井 俊貴[1]
[1]東京科学大学 整形外科、[2]東京科学大学 医療安全管理学分野、[3]東京科学大学 医療情報政策学

第10会場　アクリエひめじ　4F　409

8:40〜9:20　一般演題（口演）30　活動報告

座長：鮎澤 純子（九州大学病院ARO次世代医療センター）
種田 憲一郎（国立保健医療科学院）

心理的安全性・安全文化醸成の取り組み

0-30-1　A病院における心理的安全性の現状評価と関連要因の検討
○谷口 万糸、寺島 由美、青木 澄江、吉田 誠、山崎 幸直
福井赤十字病院 医療安全推進室

0-30-2　安全文化の醸成に向けたGood Job報告の活用
○宋 静恵、北 由美、田﨑 弘美
JCHO大阪病院 医療安全管理部

0-30-3　心理的安全性を踏まえた報告文化醸成のためのGRMによる部署支援介入の振り返り ～多職種GRM研修における部署支援介入の実践知の共有～
○岩瀬 有希[1]、坂井 直子[1]、鈴木 達也[2]、窪田 容子[1]、滝沢 牧子[3]
[1]千葉大学医学部附属病院 看護部 医療安全管理部、[2]千葉大学医学部附属病院 薬剤部 医療安全管理部、[3]千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部

0-30-4　※演題取下げ

0-30-5　手術室におけるTeamSTEPPS®導入とGood job事例の振り返りによるチーム力向上への取り組み
○石川 彩奈[1]、松永 由美子[1]、土屋 真子[1]、森 恵理[2]
[1]聖隷浜松病院 看護部 手術室、[2]聖隷浜松病院 安全管理室

9:40〜10:30　一般演題（口演）31　活動報告

座長：近本 亮（熊本大学病院医療の質・安全管理部）
加納 隆（滋慶医療科学大学大学院 医療管理学研究科）

モニタ・アラーム管理体制の構築(MACT活動)

0-31-1　生体情報モニタのアラーム削減への挑戦　～MACT始動～
○長岡 俊治[1,2]、嶋田 ひとみ[1]、梶田 貴司[1]、冨嶋 大地[3]、岡本 智子[3]、島本 佳代[3]、西原 昂[4]、榎本 操一郎[5]、奥村 和弘[1,6,7]
[1]公益財団法人天理よろづ相談所病院 医療安全管理室、[2]臨床工学部、[3]看護部、[4]呼吸器内科、[5]循環器内科、[6]泌尿器科、[7]統括医療安全管理者

0-31-2　「とりあえず装着」からの脱却「院内統一モニター着脱基準」の策定
○西川 千絵[1]、笹岡 真矢[2]、野村 哲[2]、花岡 佳子[1]、飯島 恵美[1]、小田切 久八[3]、笹尾 潤一[3]
[1]伊那中央病院看護部、[2]伊那中央病院診療技術部臨床工学科、[3]伊那中央病院診療部

0-31-3　当院におけるMACTの活動報告～モニタアラームを減らす試みを含めて～
○庭前 野菊[1]、金井 亜紀子[2]、三枝 典子[2]、境野 如美[3]、有馬 ひとみ[4]、新井 智和[5]、平井 功[5]、清水 智子[5]
[1]前橋赤十字病院心臓血管内科および医療安全推進室、[2]前橋赤十字病院看護部および医療安全推進室、[3]前橋赤十字病院臨床工学課、[4]前橋赤十字病院臨床検査課、[5]前橋赤十字病院医療安全管理課

0-31-4　セントラルモニターアラーム勉強会によるテクニカルアラーム低減と対応向上の検討
○鎌田 文哉[1]、霜尾 優貴[1]、水落 直子[2]、川上 千年[1]
[1]横浜市立大学附属病院臨床工学部、[2]横浜市立大学附属病院看護部

0-31-5　MACT介入による生体情報モニタ運用見直しと患者受け入れ困難事例の改善
○境野 如美[1]、庭前 野菊[2]、三枝 典子[3]、有馬 ひとみ[4]
[1]前橋赤十字病院医療技術部臨床工学技術課、[2]前橋赤十字病院 心臓血管内科、[3]前橋赤十字病院 看護部、[4]前橋赤十字病院 臨床検査部

10:40〜11:40　一般演題（口演）32　活動報告　　座長：平河 勝美（滋慶医療科学大学大学院 医療管理学研究科）
玉木 茂久（伊勢赤十字病院血液内科／医療安全推進室）

患者誤認防止・確認行動の改善

O-32-1　重症心身障害者施設における患者誤認防止対策について
○澤田 さおり、千葉 幸子、中山 由紀子
一般財団法人 多摩緑成会 緑成会整育園

O-32-2　患者誤認インシデントに対する患者誤認ラウンドの導入と効果
―行動実態の把握による組織的課題の明確化―
○川畑 恵理子[1]、中村 美樹子[1]、道源 ゆかり[1]、高田 早苗[1]、若杉 陽子[3]、後 信[1]、手嶋 伸江[2]、原口 忠相[2]
[1]九州大学病院 医療安全管理部、[2]九州大学病院 看護部、[3]九州大学病院 医療安全管理部／薬剤部

O-32-3　確認作業を有効に行うための業務改善
～課題貢献度と責任を可視化できる確認方法の導入　第1報～
○山中 利加
市立大津市民病院 医療の質・安全管理室

O-32-4　患者誤認対策　～“5月20日誤認ゼロ”キャンペーンの取り組み～
○築地 さなえ[1]、中嶋 いくえ[1]、佐々 扶美[1]、佐々 利明[1]、村中 裕之[1]、原武 義和[2]
[1]済生会熊本病院 TQM部 医療安全管理室、[2]副院長・医療安全管理対策委員長

O-32-5　患者の声を活用した看護管理者の確認行動改善の実践と成果
○原田 智子、東本 昌之、上別府 昌子
社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

O-32-6　薬剤確認時のダブルチェック再考への取り組み
～内服薬確認手順の見直しからの意識改革～
○杉本 明子
JA愛知厚生連 渥美病院

12:00〜12:50　教育セミナー14　　座長：武本 智樹（近畿大学病院 安全管理センター・医療安全対策部）

「孤立する医療安全」から「つながる医療安全」へ
～患者は境界を越える．睡眠薬の地域フォーミュラリで患者安全も境界を越える～

○新田 雅彦
大阪医科薬科大学病院 医療総合管理部 医療安全推進室

共催：エーザイ株式会社

13:50〜14:40　一般演題（口演）33　研究発表　座長：矢野 真（日本赤十字社総合福祉センター）
此川 衣子（群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部）

感染対策・見守り機器による安全管理

O-33-1　医療用テープの管理・携帯方法が微生物汚染および消費量に及ぼす影響
○關口 麻奈美[1]、寺田 教彦[2]、阿部 真理子[3]、中山 友貴[1]、菅野 江美子[1]
[1]筑波メディカルセンター病院 看護部管理、[2]筑波メディカルセンター病院 診療部感染症内科、
[3]筑波メディカルセンター病院 診療技術部臨床検査科

O-33-2　A病院の病棟看護師・看護補助者における手指消毒の実態調査
－場面別にみた実施前後の課題－
○西田 恵太、片峯 正斗、三村 大輔、荒川 美恵子、福田 佳高、鈴木 佳世子
獨協医科大学日光医療センター 看護部

O-33-3　臥床患者での体重測定の現状と課題 ―ベッド脚下荷重センサー式体重測定の測定精度検証と安全性・効率性向上の可能性―

○間瀬 照美[1]、大坪 千智[1]、小林 泰之[2]
[1]横浜市立みなと赤十字病院、[2]聖マリアンナ医科大学

O-33-4　Aセンターに勤務する看護師における病床見守りカメラ使用に関する実態調査

○齋藤 和宏、三村 大輔、荒川 美恵子、福田 佳高、鈴木 佳世子
獨協医科大学日光医療センター 看護部

O-33-5　A病院B病棟での離床センサー使用に対する看護師の意識調査

○福田 彩香、原 優佳
日本赤十字社長崎原爆病院

14:50〜15:40　一般演題（口演）34　活動報告

座長：安田 あゆ子（国立病院機構名古屋医療センター 呼吸器外科・医療安全管理部）
荒井 有美（北里大学病院 医療安全推進室）

タスクシフト・タスクシェアの実践

O-34-1　救命救急災害医療センターICUにおける安全に配慮した特定行為の実践に関する活動報告

○埜本 竜哉、森安 恵実
北里大学病院 救命救急災害医療センターICU

O-34-2　医師事務作業補助者とNurse Practitionerにおける薬剤等代行入力インシデント報告書データの後方視的分析と問題への介入

○舟橋 智美[1]、藤本 和朗[2]、森 一直[3]、森田 充[4]、大西 正文[1]、伊藤 清顕[5]
[1]愛知医科大学病院 薬剤部、[2]愛知医科大学病院 医療安全管理室、[3]愛知医科大学病院 NP部、
[4]愛知医科大学病院病院 事務部診療支援課、[5]愛知医科大学病院 医療安全管理室 肝胆膵内科

O-34-3　電子カルテを用いた臨床工学技士業務依頼の一元化による医療安全向上への取り組み

○橋本 美和[1]、川上 千晶[1]、山田 文哉[1]、伴野 誠幸[1]、小田 真矢[1]、山本 尊義[1]、浅木 康志[1]、泉谷 裕則[1,2]
[1]愛媛大学医学部附属病院 ME機器センター、[2]愛媛大学大学院医学系研究科 心臓血管呼吸器外科

O-34-4　当院における診療放射線技師注射業務移行の経緯

○櫻井 和明
武蔵野赤十字病院放射線科部

O-34-5　高度急性期・急性期病院透析室における臨床工学技士による透析穿刺タスクシフトの安全性評価

○前田 真由美、廣畑 由樹子、梅田 洋平、弓削 聡、青塚 達也、高寄 裕貴、西村 愛佳理、岡 佳伴、大山 寛子、青田 恭朋
地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 臨床工学部

ワークショップ会場1　アクリエひめじ　1F　スタジオ1

10:10〜11:40　ワークショップ 2

座長：小山 昌利（名古屋市立大学大学院）
辰巳 陽一（徳洲会グループ医療安全管理部門／近畿大学医学部・近畿大学病院）

多職種で実践する医療機器安全管理への教育〜インシデント活用・管理体制の現状と課題〜

1　なぜ今、多職種で医療機器安全管理を問い直すか〜心理的安全と学習する組織〜
○小山 昌利
名古屋市立大学大学院

2　医療安全管理部門が担うバウンダリースパニングの実践
－職種間の境界を越えて協働した二つの事例から－
○新開 裕幸、勇 佳菜江、大石 祐子、北村 温美、中島 和江
大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部

3　現場の気づきを組織の仕組みに変える
―ICU臨床業務と中央管理をつなぐ医療機器安全管理―
○沖島 正幸
JA愛知厚生連 江南厚生病院 臨床工学室

4　医療安全管理者から見た医療機器における多職種マネジメント
○畔柳 信吾
碧南市民病院 医療安全管理室

5　インシデント報告を組織学習につなげるシステムズアプローチ
○前田 佳孝
自治医科大学メディカルシミュレーションセンター

6　集中治療の視点から見た医療安全管理室と臨床工学部の連携
○德平 夏子[1,2]、宇留野 達彦[3]、宮川 幸恵[4]、杉坂 恵美[1]、山下 由紀[1]、阿部 正樹[1]、大郷 剛[1]
[1]国立循環器病研究センター 医療安全管理室、[2]大阪大学医学部附属病院、
[3]大阪大学医学部附属病院 臨床工学部、[4]国立循環器病研究センター 臨床工学部

13:50〜15:20　ワークショップ 3

座長：藤田 卓仙（公益財団法人東京財団／名古屋大学／コー・イノベーション大学）

医療機関におけるTrustworthy AIの実現〜患者安全の視点でAIを選ぶ・使う・管理する〜

1　AISIおよびヘルスケアSWGのご紹介
○前田 誉彦
独立行政法人情報処理推進機構／AIセーフティ・インスティテュート

2　医療現場の生成AI活用における課題について
○土橋 由実
株式会社三菱総合研究所

3　ヘルスケア領域におけるAIセーフティ評価観点ガイド及びプロンプトと
スキルの実践ガイドについて
○井上 真夢[1,2]、風間 正弘[1]
[1]Ubie株式会社、[2]日本デジタルヘルス・アライアンス 信頼できるAIのイノベーション推進委員会

4　医療安全・患者安全の観点から見た評価観点ガイドの活用提案
○折茂 圭介
Ubie株式会社

5　医療機関における Trustworthy AI の実現に向けて

○藤田 卓仙
公益財団法人東京財団／名古屋大学／コー・イノベーション大学

ワークショップ会場2　アクリエひめじ　4F　404

8:30〜11:30　学会連携企画ワークショップ

【日本医学シミュレーション学会】
医療安全を踏まえた周術期システム改善プログラム

講師：安田 あゆ子（名古屋医療センター）
万代 康弘（東京慈恵医科大学 救急災害医学講座）
羽場 政法（ひだか病院）

後援：日本シミュレーション医療教育学会

ポスター会場　デジタルポスター①〜③：アクリエひめじ　1F 展示場A

9:00〜10:00　**一般演題（ポスター）32**　研究発表　デジタルポスター①

座長：宇野 洋司（横浜市立大学附属市民総合医療センター 医療の質・安全管理部／薬剤部）

薬剤・与薬安全管理・転倒・転落対策

P-32-1　重症転倒・転落事案0件を達成
―循環器病棟における心臓リハビリテーションと衝撃吸収マットによる重症転倒予防―
境田 智子　ほか
熊本大学病院東病棟5階 循環器病棟

P-32-2　病院から自宅・施設へのケア移行において薬局薬剤師が発見・回避したメディケーションエラーの特徴
鈴木 亮平　ほか
国立病院機構三重中央医療センター薬剤部／名城大学薬学部医薬品情報学研究室

P-32-3　肺切除手術時における硬膜外麻酔／ブロック麻酔の安全性についての検討
渡部 晶之　ほか
福島県立医科大学 呼吸器外科学講座／福島県立医科大学 医療安全管理部

P-32-4　DI活動によるインシデント対策の検討
那須村 久恵　ほか
熊本託麻台リハビリテーション病院 医療技術部 薬剤科

P-32-5　夏・冬場における宅配便を利用した冷所保存医薬品の配送と安全性確保
貝瀬 春香　ほか
東邦大学薬学部社会薬学教室

P-32-6　医薬部外品における副作用報告データを用いた皮膚及び免疫関連副作用のシグナル検出
網谷 圭晃　ほか
東邦大学薬学部社会薬学教室

P-32-7　血液透析機械室における洗浄剤誤混合時の塩素ガス長時間発生挙動 ―24時間経時測定による検討―
清水 好　ほか
関西医科大学総合医療センター

P-32-8　医療過誤訴訟による紛争解決の診療科別動向に関する分析
平賀 秀明　ほか
東邦大学薬学部社会薬学教室

P-32-9　我が国の医事関係訴訟の発生率及び訴訟結果における地域差の存在
森谷 優花　ほか
東邦大学薬学部社会薬学教室

P-32-10　特定機能病院における新看護方式の導入効果と課題―業務効率化と転倒予防の両立を目指して―
柳橋 恵美子　ほか
神戸大学医学部附属病院看護部

9:00～10:00　**一般演題（ポスター）33**　研究発表　デジタルポスター②

座長：菊地 龍明（横浜市立大学附属病院医療安全管理部）

患者誤認防止・確認行動・タスクシフト・タスクシェア・患者説明・IC・SDM

P-33-1　看護師特定行為実践に関する医療事故状況の検討（第3報：特定行為に係る看護師の事故防止への貢献認定看護師に着目して）
安立 なぎさ　ほか
名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア支援センター 看護キャリア支援室

P-33-2　入院患者の処方における薬剤取り揃え時のGS1コード照合不一致の関連因子
阿部 誠也　ほか
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 薬剤部

P-33-3　DXに関連する薬局ヒヤリ・ハット事例の分析
加藤岡 美優　ほか
東邦大学薬学部社会薬学教室

P-33-4　直近約10年の裁判例にみる助産師の異常の認識と医師への報告 ー医療安全の観点からー
平塚 志保
旭川市立大学

P-33-5　インシデントレポートの対策立案に必要な情報をみつける方法
長村 千春　ほか
珠光会 聖ヶ丘病院

P-33-6　新カリキュラム導入後の診療放射線技師養成学校におけるタスク・シフト／シェアに対応する教育効果の検討
米坂 聡一郎　ほか
大阪滋慶学園 大阪ハイテクノロジー専門学校 診療放射線技師学科

P-33-7　医療系学生の安全意識・非テクニカルスキル・失敗傾向・コーピングに関するプロフィール分類：クラスター分析による検討
斉藤 徳　ほか
日本医療大学 保健医療学部 臨床工学科／北海道医療大学 心理科学研究科大学院

P-33-8　識別特化型AIによるインシデントレポートの分布可視化
植村 政和　ほか
名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部

P-33-9　糖尿病性腎症により血液透析療法を受けている患者の感染予防に関する認識と行動
佐々木 真由美　ほか
公益財団法人 浅香山病院

P-33-10　動画資料を用いた帝王切開術前説明の質改善効果の検討
日下田 大輔　ほか
群馬大学大学院医学系研究科産科婦人科学講座

9:00～9:48　**一般演題（ポスター）34**　英語発表　デジタルポスター③

座長：安部 猛（福島県立医科大学総合科学教育研究センター 医療統計学分野）
荒神 裕之（山梨大学大学院総合研究部医学域 医療安全学講座）

英語発表(International)

P-34-1　Enhancing Medication Safety in the Diagnostic Examination Room by Utilizing HFMEA
Pei-Chuan Weng　ほか
Chiali Chi-Mei Hospital

P-34-2　A Quality Improvement Initiative to Reduce Waiting Time for Outpatient Diagnostic Examinations

En-Hui Ting　ほか
Kaohsiung Veterans General Hospital Tainan Branch

P-34-3　Functional Resonance Analysis Method (FRAM) for Resilience Drift and Intervention Strategies in Ventilator Care

Miao-Yu Chen　ほか
Section of Respiratory Therapy, Chi Mei Hospital, Chiali, Tainan, Taiwan

P-34-4　Early-Warning Quality Indicators for HFNC Failure in Type I Respiratory Failure

Po-Hao Huang　ほか
Section of Respiratory Therapy, Chi Mei Hospital, Chiali, Tainan 722012, Taiwan

P-34-5　A PDCA-Based Quality Improvement Pathway for Pressure Injury Care Using NPWT

Xiang-Han Chen　ほか
Department of Nursing, Chi Mei Hospital, Chiali, Tainan, Taiwan

P-34-6　Implementing QCC for COPD Care Improvement in a Regional Teaching Hospital

HSIAO-LIN KUO　ほか
Center for Quality Management, Chi Mei Hospital, Chiali

P-34-7　Indicator Visualization and 14-Day Readmission Reduction

HSIAO-LIN KUO　ほか
Center for Quality Managment, Chi Mei Hospital, Chiali

P-34-8　Current Status and Challenges of Medical Safety Support Centers in Japan: A 2025 National Survey

Hiroyuki Kojin
Department of Quality and Patient Safety, Graduate school of Medicine, University of Yamanashi

---

10:15〜11:15　一般演題（ポスター）35　研究発表　デジタルポスター①

座長：杉山 良子（医療安全全国共同行動）

転倒・転落対策・心理的安全性・安全文化・報告文化

P-35-1　2025年度安全文化調査報告：日米比較と経年変化

種田 憲一郎
国立保健医療科学院

P-35-2　東北大学病院歯科部門における医療安全文化醸成の現在地―7年間の分析報告―

小林 洋子　ほか
東北大学病院歯科医療管理部／東北大学病院医療安全推進室

P-35-3　救急医療に携わる看護師の職務満足度と医療安全の意識に関する調査　質問票の作成の試み

山田 美枝子　ほか
帝京平成大学健康医療スポーツ学部看護学科

P-35-4　転倒・転落初期対応プロトコルの遵守率向上に向けた段階的介入の効果
―3段階モニタリングと記録支援チェックリスト導入による組織的行動変容の検証―

有賀 淳子
医療法人純正会名豊病院 医療安全管理室

P-35-5　当院の転倒・転落アセスメントシート改定の取り組み―危険度変化に着目して―

椿野 幸子　ほか
山形市立病院済生館 安全管理室／山形市立病院済生館 リハビリテーション室

P-35-6　急性期病院におけるリハビリ介入と転倒発生との関連に関する後方視的解析

上原 徹也
神鋼記念病院 消化器外科

P-35-7　A病院における過去6年間の転倒・転落発生状況と安全管理上の課題

磯﨑 恵　ほか
茨城県立こども病院

P-35-8　医療事故当事者となった看護職者が受けた支援と安全学習の関連
～医療安全文化調査の結果から当事者支援を検討する～

谷 真澄　ほか
済生会松阪総合病院

P-35-9　身体拘束最小化を維持しながら転倒転落重症化（レベル3b）予防に向けた取り組み
―認定看護師の専門的介入と多職種連携による環境調整の効果―

山田 好子　ほか
町立奥出雲病院 医療安全管理室

P-35-10　単施設における足趾伸展機能付き転倒予防靴下の着用が普通靴・長靴歩行に及ぼす影響

井上 誠　ほか
県立広島大学 保健福祉学科 看護学コース

10:15～11:15　一般演題（ポスター）36　研究発表　デジタルポスター②

座長：田畑 雅央（東北大学病院 医療安全推進室）

教育・研修・シミュレーション・心理的安全性・安全文化・報告文化・RRS・急変対応

P-36-1　医療安全啓発センターにおける医療安全活動の体系化とプログラム計画・評価の構築：
ロジックモデルを用いた組織横断的医療安全実装モデルの開発

世川 修　ほか
東京女子医科大学 医療安全啓発センター

P-36-2　患者安全対策ルールの立案に看護師の立場が及ぼす影響の解明

新名 亜弥　ほか
神戸大学医学部附属病院看護部、滋慶医療科学大学大学院

P-36-3　日本の看護師の呼吸数測定および記録の現状

梶原 志保子　ほか
名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター看護キャリア支援室

P-36-4　急性期病院の一般病棟で働く看護師が急変と認識する患者の徴候に関する研究

松村 初恵　ほか
島根大学医学部臨床看護学講座

P-36-5　職員満足度・心理的安全性の調査結果を踏まえた「勤続意欲」を高めるための当院の取り組み

小池 勤　ほか
富山大学附属病院 医療の質推進部

P-36-6　A病院HCU病棟看護師が忙しいと感じるときの心理的安全性の現状

森 美菜子　ほか
山形県立中央病院HCU病棟

P-36-7　麻酔導入シミュレーションでの麻酔科医と看護師との共同視野（shared peripheral viewpoint）を捉える：
360度映像を用いた視線円錐（gaze cone）自動検出の試み

佐藤 仁　ほか
横浜市立大学附属市民総合医療センター／大阪大学 医学部附属病院

P-36-8　インシデント報告から見たTeamSTEPPS集合研修の成果と課題
国 典子　ほか
福岡市立こども病院 医療安全管理室

P-36-9　アセスメント能力の向上にむけて～ KYT・OSCEテストの効果～
高木 真由美　ほか
春日部市立医療センター6N病棟

P-36-10　RCA研修による臨地実習指導に携わる看護職者・教員のチームアプローチ力および問題解決能力の変化
犬飼 智子　ほか
川崎医療福祉大学保健看護学部保健看護学科

10:15～11:03　一般演題（ポスター）37　研究発表　デジタルポスター③

座長：坂口 美佐（日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部）

モニター・アラーム管理・手術・周術期安全管理・組織運営・方針管理・質改善活動・リスクマネジメント・教育・トレーニング

P-37-1　手術に直接関わる5職種の手術部門における安全風土の共通認識
谷村 卓勇　ほか
兵庫医科大学 看護学部

P-37-2　アラーム疲労軽減に向けた通信プロトコルの最適化～小児病棟における脈拍数「偽アラーム」の削減～
宮本 哲豪　ほか
淀川キリスト教病院 臨床工学課

P-37-3　回復期病棟における院内デイサービス導入が身体拘束軽減と安全確保に与えた効果
武内 智矢　ほか
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 座間総合病院

P-37-4　A病棟の診療科編成変更がインシデント発生におよぼす影響
末永 志帆　ほか
東京都立病院機構 東京都立多摩総合医療センター

P-37-5　医療の質・安全活動を維持・継承していくための組織体制のあり方に関する研究
田中 宏明　ほか
清水建設株式会社

P-37-6　退院支援情報シートの変更による看護師の退院支援に関する意識の変化
丸橋 瞳　ほか
NTT東日本札幌病院 看護部主任会

P-37-7　TUL術後患者の敗血症発症リスク因子および重症化の経過の分析―RRS早期介入にむけた示唆―
長尾 莉沙　ほか
川崎医科大学附属病院 看護部

P-37-8　急変対応の知識と技術を習得する新たな学習ツールを作成するための現状把握
山田 裕子　ほか
群大病院循環器科

13:50〜14:44　**一般演題（ポスター）38**　研究発表　デジタルポスター①

座長：小松 康宏（東京女子医科大学 医療安全学講座）

医療機器・処置手技の安全・医療事故調査・訴訟・対話推進・RRS・急変対応

P-38-1　善意に基づくルール逸脱はなぜ広がるのか：医療現場における社会伝播

三橋 立　ほか
順天堂大学医学部附属練馬病院脳神経外科

P-38-2　当院における穿刺時の「神経損傷」

田畑 雅央　ほか
東北大学病院 医療安全推進室

P-38-3　回路のねじれが血液透析用ルアーコネクタの離断リスクに及ぼす影響：軸方向力およびトルクの測定と物理モデルによる解析

松井 智博　ほか
滋慶医療科学大学

P-38-4　痰づまりによる院内急変事例の検討

小西 康信　ほか
関西医科大学附属病院 心臓血管外科

P-38-5　医療事故調査における解剖・死亡時画像診断実施と死因判明との関連性：センター調査報告書225事例の分析

岩満 加奈　ほか
一般社団法人 日本医療安全調査機構

P-38-6　CLAP療法におけるシリンジポンプ灌流管理の安全性に関する検討

日焼 功貴　ほか
JA愛知厚生連 豊田厚生病院 臨床工学室

P-38-7　A病院で発生したコードブルー事例の振り返りと急変回避に向けた課題

石川 峻　ほか
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

P-38-8　病理解剖や死亡時画像診断に対する市民の意向調査：医療事故疑いか否かで意向は変化するのか？

栗原 健　ほか
名古屋大学医学部附属病院患者安全推進部

P-38-9　血液浄化装置ACH-Σの脱血不良時に発生する抗凝固剤の吸引についての検討

平野 匠　ほか
大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部／大阪大学医学部附属病院 臨床工学部／
滋慶医療科学大学大学院 医療管理学研究科 医療安全管理学専攻